

メタファーとしての家族——キリスト教における家族をめぐる論争

同志社大学 小原克博

1. 聖書の家族観

1) 家父長的な家族観

旧約聖書（ヘブライズム）および地中海世界（ヘレニズム）

2) 神のメタファー

旧約聖書の中では「父」としての神は限定的。神の「父性」「母性」を表現するのは偶像崇拝的・異教的と考えられた。

3) イエスの場合：（伝統破壊的）個人倫理

「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思ってはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、娘を母に、嫁をしゅうとめに。こうして、自分の家族の者が敵となる。わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしくない。わたしよりも息子や娘を愛する者も、わたしにふさわしくない。」（マタイによる福音書 10:34-37）

（参考）「見失った羊」のたとえ（ルカ 15:1-7）、放蕩息子の譬え（ルカ 15:11-32）

4) 教会における家族のメタファー

神：父、イエス：長子、弟子たち：兄弟姉妹

5) 周辺環境（ローマの家父長的家族観）からの影響

「妻たちよ、主を信じる者にふさわしく、夫に仕えなさい。」（コロサイの信徒への手紙 3:18）

「しかし婦人は、信仰と愛と清さを保ち続け、貞淑であるならば、子を産むことによって救われます。」（テモテへの手紙一 2:15）

(参考)「「なんと幸いなことでしょう、あなたを宿した胎、あなたが吸った乳房は。」しかし、イエスは言われた。「むしろ、幸いなのは、神の言葉を聞き、それを守る人である。」」(ルカによる福音書 11:27-28)

2. 現代の問題——家族をめぐる「文化戦争」

1) 新しい家族像の模索

伝統的な家族像：男性中心的、異性愛中心

非伝統的な家族像：同性愛(者)の位置づけ(→同性愛論争)

2) 家族論からコミュニティ論へ

「隣人を自分のように愛しなさい」(マルコ 12:31)、「では、わたしの隣人とはだれですか」(ルカ 10:29)

moral community の境界設定をめぐる論争：胎児(→中絶論争)、脳死患者

3. 結論——メタファーとしての家族

1) メタファー

既知のものから未知のものを指し示す「発見的」(heuristic) 方法

2) リアルな家族関係とバーチャルな家族関係の間のダイナミズム(往還運動)と、そこにおける宗教の固有の役割